

平成27年度第1回 芦屋市立美術博物館協議会 会議録

日 時	平成27年12月18日(木) 10:00~12:00
場 所	北館4階 教育委員会室
出席者	<p>会長 蓑 豊 副会長 齊木 崇人 委員 池浦 隆一 委員 岸野 裕人 委員 仲庭 太栄子 委員 野村 知巨 委員 別所 健 (欠席委員) 委員 成田 直美</p> <p>(芦屋市立美術博物館指定管理者) 副館長 石井 茂(株式会社小学館集英社プロダクション) 学芸員 大槻 晃実(株式会社小学館集英社プロダクション) 株式会社小学館集英社プロダクション 上野 健治 株式会社小学館集英社プロダクション 中村 匡一 グローバルコミュニティ株式会社 青木 大介</p> <p>(事務局) 生涯学習課長 長岡 一美 生涯学習課文化財係長 竹村 忠洋</p>
事務局	生涯学習課
会議の公開	■ 公開
傍聴者数	0 人

1 会議次第

- (1) 開会
- (2) 委嘱状交付
- (3) 委員紹介
- (4) 議題・報告
 - ①芦屋市立美術博物館指定管理者の外部評価について
 - ②平成27年度の事業内容と利用状況について
 - ③平成28年度の事業計画について
 - ④その他

2 提出資料

資料1 指定管理者制度導入施設の第三者評価結果（芦屋市立美術博物館）

資料2 芦屋市立美術博物館運営基本方針

資料3 指定管理者提出資料（平成27年度事業関係）

資料4 指定管理者提出資料（平成28年度事業関係）

3 審議経過

（会長）

それでは、議題1の「芦屋市立博物館指定管理者の外部評価」について、事務局より説明をお願いします。

（事務局：長岡）

資料1に基づき説明。

（会長）

私もこの外部評価どおりだと思います。この協議会でも、学校の児童・生徒を連れてくるように何度も呼びかけてきました。この間、県の懇談会で、知事の前で兵庫県はこれから国にもっと提案していかなければいけない、兵庫県は素晴らしい文化遺産を持ってるわけですから、それを地元の人が知らないのはおかしいし、学校教育の中で地域の歴史や文化遺産等を子ども、小・中学生がきちっと把握できるような事業をしていくべきであると提案しました。国にぜひ要望して、日本全体の歴史よりももっと大事なのは地域の歴史であるのに、地域の人たちが地域の素晴らしさを知らない。それが、東京や大都市に人口が集中して地域に帰ってこない、大きな理由に繋がっていると思います。地域には素晴らしいものがあるし、地域で頑張ろうと、地域をもっと世界へ発信しようという気持ちを持たなければならないのは当たり前です。これをぜひ芦屋市からはじめていただきたいと思います。ちょっとした努力で、少し予算をつけてもらって、市民が全員、美術博物館に来館するようになってもらいたい。芦屋市はそんなに広いわけではないですから、ぜひ、やってもらいたい。そういうことをすれば、国の予算が絶対につくと思います。だから、国と市がお金を出し合えば、芦屋市の評価もぐっとあがるし、美術博物館にたくさんの方が来るのは目に見えます。指定管理者が掲げた来館者の目標5万人を達成するようにぜひやってほしいです。今回、外部評価でC評価がついたのは、当然の結果です。このC評価を良い方向に受け取ってCがついた以上は、これをAにあげるようにみんなで努力してほしいと思います。

（事務局：長岡）

はい。特に言われたのが、芦屋市が文化ゾーンに位置付ける図書館と美術博物館と谷崎潤一郎記念館の3館連携の事業が見えてこないということで、もっと連携して相乗効果をはかるような、積極的な事業展開をすべきということでした。

（会長）

図書館の入館者は、年間どれぐらいですか？

(事務局：長岡)

今、資料がないので、具体的な数字はお答えできませんが、図書館は割と利用率が高いです。

(会長)

そうすると、市民は図書館まで来ているわけですから、すでに美術博物館の傍にいるということになります。ある市の図書館は、いつ行っても満員です。そういう賑やかさがある図書館と連携すれば、図書館の利用者が少しでも寄れば、美術博物館の入館が増えるわけだから、何とかして連携してもらいたいです。

(事務局：長岡)

また、一番頭が痛いところですが、備品の管理について指摘されています。この備品には収蔵品も含まれており、これは指定管理者になる前からの課題です。机や椅子のような備品も市が台帳を管理していますが、台帳と現地での照合がきちり合わなかったり、指定管理者が置かれた備品を市が把握する必要もあります。収蔵品は、絵画等の美術品はきちり把握できていますが、一方の民具をはじめとする歴史資料がちゃんと把握できていません。それに関する指摘が一番大きなところだと思います。

(会長)

それで、C評価がついたんですか？

(事務局：長岡)

いえ、それも含めて全体ではB評価となっており、改善すべき課題として指摘いただいています。

(会長)

芦屋市にも文化財課はありますか？

(事務局：長岡)

文化財課ではなく、生涯学習課の中の文化財係が担当しています。

(会長)

職員は何人いますか？少ないんですか？

(事務局：長岡)

文化財係は、学芸員の竹村が係長として主になっていて、再任用の学芸員が1人、嘱託が2人と臨時的任用職員がいます。また、それ以外に、文化財係は美術博物館及び谷崎潤一郎記念館の事務も所管していますので、それに携わる再任用職員2名と臨時的任用職員がいます。

(会長)

芦屋市で建物を建てる時に発掘調査を実施することがありますね。その場合、この人数で足りるですか？足りないでしょう。外注するのですか？

(事務局：長岡)

発掘調査の件数や規模は年によって違いますが、これまでの調査データを利用して省略ができるところはあります。しかし、本格的な調査が必要になった場合は市の職員だけではとてもできませんから、委託になります。

(菘会長)

出土品等はどこで保管していますか？発掘では、陶器片等がたくさん出てきますよね。

(事務局：長岡)

出土品は、指定文化財等、特に重要な物は美術博物館で保管しています。その他、三条町にある文化財整理事務所や湾岸線下の倉庫等で保管しています。なお、今回、指摘を受けたのは、埋蔵文化財ではなく、美術博物館で保管している民具等です。それらが一点一点、台帳に登録できていません。それらの中には、阪神・淡路大震災で古い家等が倒壊して蔵等が潰れた時に、ボランティアによる文化財レスキューによって収蔵されたものも多数あります。そのまま放っておいたら貴重な資料が失われてしまうので、とりあえず預かったのですが、その整理が未だにちゃんとできていません。

(菘会長)

それはいずれしないといけません。破棄すべきものは破棄する必要があります。全部大事なものは限らないので、どこかの時点で誰かが評価して「もうこれは必要ない」ということで整理していかないといけません。今日、明日の問題ではありませんが、いつかしなければなりません。

(齊木副会長)

いくつかのことに気づいたんですが、まず教育改善ですね。これまで、この協議会でいろいろと議論してきたことがすべて指摘されています。ということは協議会の委員の一人として、私たちがちゃんと役割を果たせなかったという厳しい意見をいただいたと思います。協議会として、このことを真摯に受け止めなければなりません。そして、学芸員の方々、指定管理者で、この外部評価について、どのように自己評価するのか、このことが大切ではないでしょうか。厳しく言いますと、ちょっと他人事のような感じで報告されました。しかし、「このような結果でした」では済まないことだと思います。市民に対して私たちが委嘱を受けて協議会を開催しているわけですから、私たち自身の責任もありますし、指定管理者、さらには学芸員一人一人の意見を集約して、芦屋市としてはこのように考えますというのが、本日出されるべき資料ではないかと思います。それをやらない限り、話は前に進まないと思います。

(菘会長)

他人事では、ありません。

(齊木副会長)

また、私がこの事実を確認した時に気がついたことは、美術博物館が何を狙っているのかという時に、やはりいかに情報発信するか、さらには今も新しいものが蓄積されていくという、要するに過去のものだけを提供しているのではなくて、常に新しい美術や新しい歴史的な蓄積が発見されて、それらが提供されているはずです。運営基本方針(資料2)を見ていくと、蓄積をすとか、上手く蓄積し続けていくということが、どうも、使命、目的としてもう少し必要だと思います。それから、学校教育との連携はもっと積極的に出さないといけません。これは蕘会長や私が初めに申し上げたことです。先生方も、ぜひ、やりましょうということで、あとは実践すればいいだけでした。やるか、やらないかの決断が必要だと思います。すごく厳しい意見を申し上げましたけど。

(蕘会長)

話し合って、これからやっていかなければなりません。他人事じゃないですから。

(事務局：長岡)

学校との連携については、担当者レベルでお願いしても学校の先生方はカリキュラムがあつて、学校行事も詰まっています、何十人という生徒を引率には交通事故等の危険もあり、なかなか実現が困難です。今おっしゃっていただいたように、もっと全市をあげて取り組まなければ難しいと感じています。

(蕘会長)

金沢の21世紀美術館ではバスを出して児童・生徒を美術館に連れてきました。成功すると、ちゃんと予算もつくし、結果的にすごく良かったわけです。もちろん事故の危険性等は必ず言われます。それを踏み込んで自分がやりますと言い切りましたが、誰かがそれくらいの気持ちでないと実現できません。しかし、日本では、だいたい、それを避けてそこで話が終わってしまいます。けど私はやりました。芦屋市で、ぜひ、それを実現してほしい。私は県にいますから、県の教育長や知事にもはっきり言えます。ぜひ、どこかのまちで始めないと。

(齊木副会長)

そうですね、県の中の一つのモデルになればいいです。

(蕘会長)

なってほしい。我々委員になっている以上は、やっぱり良い結果を出したい、芦屋市のために皆時間を費やしているわけですから。「一応はやりましたけどやっぱり無理でした」という結果は聞きたくない。

(齊木副会長)

この外部評価は、最高の追い風です。このデータは本当に使えます。あとは、どのように使うかということです。これを本当に追い風にしませんか。私たちと市長との懇談の場を作っていただければ、私たちが思っていること、具体的にはこういうふうに見まませんか、県下の一つのモデルになることによって、いろいろ資金的な援助や、人材的な援助、例えば学芸員を増やすとか、そ

れから学校で教育に携わる先生方をもっと現場で芦屋だけは増やす等、結果を出す。これを使わない手はないと思います。

(野村委員)

今、学校教育現場、小・中学校でできることはないかと考えていたんですけども、まず、小・中学校の先生には、「美術博物館に来てほしい」と思っていることが伝わっていない。私は分かっていますが、他の先生は来てほしいことが伝わってなくて、配られているチラシ等も、私は意識して試しているので「頑張って配ってらっしゃるんだな」と思うんですけども、他の先生には生徒に来てほしいから配ってるっていうのが伝わっていないし、担任が児童・生徒にそれを配るにしても別に一声かける訳でもないと思います。例えば、こういう展示が美術博物館であるから見てほしいみたいな文書等を付けて、校長会等でも言ってもらって、このチラシは重きをおいて学校現場でも話してもらえばありがたい等を伝えたりすればどうかと思います。また、今度、美術博物館の造形教育展で幼稚園・小学校・中学校の先生が集まるんですけども、最後の片づけの際に教育委員会の方から30分間、美術博物館の話をして、小・中学校の生徒が来るような良いアイデア等について尋ねてみる。いきなり「こうしてくれ」と言われると、「できません」となるのですが、ちょっとしたアイデアを募ってみると、こちらの努力を現場の方に伝えることからできるのかなって思いました。それと、神戸市立博物館等は出張展示で、学校に貸し出し等してもらっています。なので、文化祭や文化発表会が中学校でもあるし、小学校でも音楽祭や図工展があるんですけども、美術博物館コーナーみたいなのを作って、「美術博物館にはこういう収蔵品があってすごく有名なんだよ」みたいなコーナーを作るか、例えば、この造形教育展の時でも美術博物館のウリを案内や展示すればいいと思います。造形教育展は保護者が見に来られているんですけども、ちょっとCM的なものをして、まず発信を強くしないといけないと思います。山手中学校では音楽を聴きながら作品を作るようなことをしているし、精道中学校も今年から2年生でモダンテクニック等を使った作品で、具体美術の話もしました。地域を愛するというのも目標にあるので、精道中学校もそういう風に教材の中に入れました。あと、今年も具体美術をするような内容もありますが、子供向けではないので、子供も見やすくしていただきたいです。

(藁会長)

ただチラシを配るんじゃなくて、子供用のチラシを作ってほしいです。

(大槻学芸員)

美術博物館もいろいろと工夫をして、小学校向けに子ども用のチラシを作り全校生徒に配らせてもらっています。校長先生宛に手紙を1枚いれさせていただいて送っていますし、イベントはすべて全校生徒に配ってもらえるように、クラスごとに分けて、先生、学年ごとに分けて送らせてもらったりと、学校への案内にはこちらでできること、考えられることをしておりますが、野村先生からのご意見をお聞きし、まだまだ努力が足りないことが分かりました。

(野村委員)

手紙がボックスに置いてあるだけなんですよ。精道中学校の場合、それを子どもたちで手紙を取りにくる係りがあって、それを配るんですよ。1年生だったら、初めのころは丁寧に保護者に絶対

持って帰りなさいって伝えますが、慣れてきたら伝えません。だから、特別感をもっと出さないと
いけません。

(大槻学芸員)

招待状みたいな感じでしょうか。

(野村委員)

これに関しては、「みんなで来てもらえるように言ってください」みたいな何かが必要です。学
校の雰囲気にもよりますが、「その一瞬だけ頑張ってくれ」と言ったらみんな頑張れます。「このチ
ラシに関しては声がけしてください」みたいな。でも、それを言おうと思ったら、管理職に言って
もらわないといけません。県立美術館でも子供向け、夏休みにアニメっぽいものをしたり、見た目
だけでも子供が来たくくなるような、子ども向けと分かる内容になっています。

(藁会長)

もっと、もっと分かりやすい、芦屋の人がプライドを持って、やっぱり子供たちが芦屋で生まれ
たっていう、そういうものを持たせてあげると、子どもたちも頑張り、世界へ発信できると思いま
す。

(野村委員)

それと、資料集に具体美術も載っていますが、市民センターに白髪一雄さんの作品が置いてあり
ますが、直射日光に晒されて、すごく劣化していると思います。

(仲庭委員)

確かにそうなんですけれども、私は、週に何回か市民センターに行きますけれども、白髪さんの
絵を知らない人が多いです

(藁会長)

本物の絵が置いてあるの？

(野村委員)

そうです。大きい絵があるんです。

(仲庭委員)

でも、みなさん、「え、それ何？」って、何年も通ってる方がそうおっしゃる。

(野村委員)

それを子どもに、市民センターで中学校の作品を展示する時に、「資料集で見たでしょ」って、「す
ごいよ芦屋って、色んなものを持ってのよね」っていう感じで、まだまだ伝え足りてないんだなと
いうような実感があります。

(藁会長)

もったいないね、

(野村委員)

お金で言いたくないけれども、何千万円以上するからとは言えないけれども、すごいお金だよみたいなの。

(仲庭委員)

我々シニア世代でもそうです。白髪さんって言ったら、「白髪さん？え？そんなのどこにある？」って、「今、そこの絵の下をくぐって来たのよ」って言ったら、「ちょっと待って」って慌てて出て、「あ、ある、ある」って。

(野村委員)

名前が小さいんですかね。

(仲庭委員)

いえいえ、お名前だって、ちゃんと白髪一雄って書いてあります。

(野村委員)

上の方にあるのが問題なのでしょうか。

(石井副館長)

場所が上の方にあります。

(仲庭委員)

市民センターに行く度にくぐります。

(藁会長)

どこにあるんですか？

(事務局：長岡)

市民センターにあります。「芦屋」という題です。

(藁会長)

市役所にはないの？

(仲庭委員)

市役所にはないですね。

(事務局：長岡)

市民センターの絵は、実際にみなさんの前で白髪一雄さんがパフォーマンスをして足で書かれたものです。

(藁会長)
なるほど。

(仲庭委員)
大作ですね。ほんとに素晴らしい。

(藁会長)
何年のものですか？

(大槻学芸員)
具体美術協会が解散してからのものと聞いています。

(藁会長)
1972年以降？

(大槻学芸員)
以降です。

(藁会長)
何色なの。

(事務局：長岡)
かなり退色しています。本当は紺色だったそうです。専門の方に見ていただいたんですが、もう元の色に戻すことはできないそうです。ただ、今どんどん進行するので、これ以上退色しないようにする技術はあるので、それをすれば良いでしょうということで、今後、する予定にはなっています。展示場所については、美術博物館にという話もあるんですけども、ただ、市民センターで飾ることを目的にいただいたものですし、美術博物館では常設展示はできないとのことですので、今後もみなさんに見ていただくために、市民センターに置いておく予定です。

(藁会長)
そこで作ったんですね。

(事務局：長岡)
そうです。そのため、今の場所では、保存上どうなんだろうっていうお話もありますが、市民センターに置いておく予定になっています。

(藁会長)

保存が最も大事です。

(事務局：長岡)

そうです，だから，退色しない処理をすることになっています。

(大槻学芸員)

位置が本当に入口の真上で，展示されている場所は悪いです。

(仲庭委員)

そうなんです。

(藁会長)

場所を変えたらいい，それは良いんでしょう？

(事務局：長岡)

なかなか難しいです。本当に大きい絵なので，かける場所も，なかなか良い所は難しいです。

(岸野委員)

あんまりお金が必要なことではありません。作品をちょっと移動するだけです。

(事務局：長岡)

今は，誰でも見ていただけるのが良いのですけれども，ただ触られる可能性などが心配されます。それもあって，今は機械警備をする案もあります。今ご存知ない方も多いのですが，逆に有名になると，悪意や故意で何かしようとする場合は防ぎようがないので，そうすると市民センターに置いておけなくなる等の問題があって，今いろいろ考えているところです。

(大槻学芸員)

市民センターに展示するために描かれた作品であっても，位置は絶対に早く変えるべきです。一日一日劣化していくので，位置を変えるだけでも全然違います。

(事務局：長岡)

日が当たらない位置に。

(大槻学芸員)

それを検討してもらうのが一番いいと思います。

(仲庭委員)

あのモダンな市民センターの建物にあの絵っていうのは，本当にすごい，すごい文化財だと思うんですけども，本当に伝わっていないのは悲しいです。だから，私の周りの人には，大分宣伝しています。

(齊木副会長)

先ほど菘会長がおっしゃったように、この外部評価もチャンスにしませんか。やっぱり何とかしなくちゃいけないってことで、これをきっかけに今まで関心がなかった方々も気づいてもらえる。やっぱり話題にして、チャンスにしていかなければなりません。

(菘会長)

こんなチャンスないんじゃないですかね。

(齊木副会長)

ないですよ。チャンスにしたいですね。

(菘会長)

この外部評価を、もっと前向きに考えなければなりません。

(齊木副会長)

小学校、中学校の子どもたちの話もあるんですけども、やはり、まずは先生たちが足を運んで、来て、何か見ていただいて、自分の言葉で伝えてもらえるような、何か仕掛けができたらいと思います、やっぱり、物を見ない限り、体験しない限り、何ごとも教育はできないです。

(大槻学芸員)

今、阪神間の美術館博物館と連携事業をしていて、阪神間の11館で先生たち向けのミュージアム活用術というものをしています。そこで先生たちにご案内をさせていただいているので、先生方にも少しずつ周知できていると思うのですが、当館の周知について一層努力しないといけないと考えています。来年も引き続いて行いたいです。

(齊木副会長)

11館のツアーをする、先生たちの特別のバスを出してですね、県から費用をいただいてとか、何かそういう中で連携して、より幅が広い価値があるものだよって企画をすることによって、芦屋の価値がぐっとみなさん分かるはずですから、そういう他力を使いたいですね。

(菘会長)

子どもたちだけじゃなくて、先生も再認識してもらいたいし、芦屋にいる以上は芦屋の歴史も理解してほしいし、みなさん良いご意見をいただいたんで、ぜひ、前向きにこの外部評価に取り組んでほしいと思います。続きまして議題の『(2)平成27年度の事業内容と利用状況』について、説明をお願いします。

(石井副館長・大槻学芸員)

資料3を用いて説明。

(菘会長)

今の説明で、何かご意見ございませんか。もしなければ、続きまして『(3) 平成28年度の事業計画』の説明をお願いします。

(石井副館長)

資料4を用いて説明。

(菘会長)

展覧会について、非常に難しいし、もう少し分かりやすく説明しないと、お客さんが全然来ないと思うよ。今チャンスだから、今度、具体美術の展覧会をやるんですから、学校の子どもたちを連れてくる最高のチャンスが来ると思うんで、これを目指して子どもたちを連れてくるようにお願いします。

(大槻学芸員)

教育普及事業のびはくルームを来年も引き続いて行います。びはくルームは、今年度、11事業を開催して、ワークショップや講演会等、いろいろ開催しました。平成28年度も引き続きいろいろな作家さんに来ていただく予定です。

(菘会長)

それと、今度の『芸術新潮』が谷崎潤一郎特集になっていますね。この機会に、学芸の方で谷崎潤一郎とその美術について、谷崎潤一郎記念館と連携した展覧会ができないのかなって思います。せっかく隣に文学館あるので、装丁もすごく面白いものもありますし、そういうものをちょっと何か借りてくるとかできませんか。

(大槻学芸員)

この前、谷崎潤一郎記念館で開催されていた展覧会が装丁の内容で、美術博物館から小出権重の作品を2点貸し出していました。

(菘会長)

それなら、谷崎記念館に貸し出すのではなくて、谷崎記念館の展示に合わせて、美術博物館の方で展示すればいい。そうすると、隣なんだから貸し出す必要ないわけ、もったいない。谷崎記念館は、今、読売新聞等が指定管理者をしているのだから、読売新聞に宣伝も一緒にしてもらったらいと思います。お願いします。他に何かございませんか。

(池浦委員)

また、議題が戻ってしまいますが、今回の外部評価を追い風にしましょう、という話ですが、A、B、Cと定量的な評価として示すのはどうかと思うのだけれども、書いてあることはその通りで、これが学校の成績だとすれば60点以下だったら落第ということです。特に思うのは、指定管理者に対する意見と市に対する意見がありますが、現場の方はみなさん一生懸命頑張っていらっしゃるけれども、市に対する意見をみると、市の姿勢や体制については、例えば民間企業の査定と受け取

っていくと、少なくともB評価とは言えないと思います。全部C評価になってしまうのではないのでしょうか。芦屋市立美術博物館が、色んな意味で全国的に注目されていると思うけれども、そういう中で、「これを本当に追い風にしてちゃんとやりましょう」というのは私もまったくその通りだと思います。「それでは、どうするのか」という話なんですけれども、私もちょうど去年の12月に初めてこの協議会に出席して、これまで2回出席しましたが、率直にこの協議会について感想を言わせていただくと、1つ目は報告を聞く会議ですよ。そして、それに関連して委員の方々から色んな良い意見がいっぱい出てくるんだけど、議事録を見直してみると、言いつばなしっていうか聞きつばなしっていうか、ただそれだけになっていて、「この協議会が本当に機能しているのかな」って、はっきり言って機能してないという感想を持ちます。それから、最も重要に関連してくるのだろうけれども、昨年12月の時は事務局から運営基本方針（資料2）について簡単に説明されたけれども、蕘会長から「いきなり説明されたので、次回、みんなこれをよく読んできてください」という宿題を出されたんです。ところが、次の協議会の時には、それは議題にも何にも入ってなくて、もう放ったらかしになっている。それで、その時に齊木副会長から、「本質的な話をもっときっちりやらないといけない、そのためには会合や協議会の回数を増やして運営基本方針のためだけに開催する、委員のみなさんはお忙しい方ばかりですが、集まってやることもした方がいい」という話もありました。それで、何かやるのかと思っていたら、結果的には今日12月でもまだできていません。だから、何のためにこの協議会をやっているのかっていう感じがしています。すごく悪い表現をしてしまえば、市の方が、蕘会長はじめ、すごい専門家や団体の方々を委員に選任して、「ちゃんとしっかりしてますよ」ということをアピールするというか、コンプライアンスだとか何かそれだけのためにやっている、はっきり言ったら消化試合みたいなことをやってるという印象があります。本当にこの協議会として何かきちっと提言して、きちっとやるっていうことがまるっきり機能していない、こういう感じがしています。別に誰が悪いと言っているわけではないけれども、せつかくこの協議会があるのなら、確かに「外部評価を追い風にしましょう」とって、その方向は良いけれども、具体的にどういうふうに、何をするのか、やっぱりそのためには問題点があると思います。

（蕘会長）

やっぱり我々が色んな意見を言っているわけだから、それに対して市は、我々はすぐにはできませんけれども、10年計画でも良いんですよ、「こういうことをやります」ということを、こっちが投げかけたら、それに対して答えが全然返ってこない。

（池浦委員）

だから、はっきり言ったら、何かの報告会と、あと委員の方から色んな良い意見が出てくるんだけど、それのただの相談会という印象です。何か具体的に、何か前に進めるような話というのが、まったく感じられない会という印象を持ちます。

（蕘会長）

もったいないです。

（池浦委員）

というのが私がこれまで2回出席させていただいて感じた率直な意見です。

(菘会長)

そのとおりです。

(事務局：長岡)

そうですね、今おっしゃっていただいた意見について、実際、事務局側も、みなさんご専門であったり、色んな分野で活躍されている方なので、意見を聞いて「あ、そうか」というようなヒントやアイデアがたくさんあります。そして、それをまったく生かしていないわけではなくて、指定管理者の事業の中にも、もちろん生かされていることはあります。しかし、大きな面でいうと、もっと根本的なことについて、「では、どうするのか」というのは、実際のところあまり前に進んでない、言葉はよくないですけども、言いつばなしみたいな、そんな感じになっているというのは、事務局が省みても実際の結果としてあると思います。ただし、難しいところがあって、例えば、道案内、標識の課題は、もうずっと言われてるんですけども、それはみんな認識しているんですけども、では、例えば、どんな物をどこにどれぐらいっていうことを決めないといけません。具体案を決めて、それができるのかどうかというのは、所管課である生涯学習課が他課と調整しないとイケないのは分かっているのですが、ただ、その具体案が事務局ではわかりません。

(齊木副会長)

だからこの協議会で、そういうことを検討するワーキングチームを作って、それに関する市の担当者や美術博物館の方、学芸員の方、学校の先生等から、アイデアをいただく必要があると思います。

(菘会長)

アンケートで知りたいのは、美術博物館まで来るのに、JR、阪急、阪神、どの駅から来るのが一番多いのかを知りたいです。その駅から、例えば青い道でもいいですよ、それに沿って来れば美術博物館に到着するようなことをしたら絶対変わりますよ。どこに標識を設置すれば一番有効なのか、そういうのは委員会を作って、早急に検討してほしい。

(齊木副会長)

事務局が言われるように、もうメニューは出てるんです。

(事務局：長岡)

そうですね、

(齊木副会長)

後はやるかやらないか。

(事務局：長岡)

どれからやるか、というのもあるとは思いますが。

(齊木副会長)

というよりも、どれからでも良い、まずはスタートして。

(藁会長)

我々に言って欲しい。意見を聞くだけじゃなくて。

(事務局：長岡)

人の問題もあるので、同時にたくさんはできないので、たぶん1個ずつになると思うんですけども。

(藁会長)

それを発表してほしいです。

(仲庭委員)

アクセスの問題については、私が最初に委員になった時から出ていた問題です。

(事務局：長岡)

そうです。

(仲庭委員)

それともうひとつ、小・中学校、要するに子供たち、次世代にどのようにして訴えかけて、どのようにして集客に結び付けていくのかというのも重要な課題として、毎回言われてる。

(齊木副会長)

この2つの課題からスタートしたら、必ず好環境が出てきます。お互いに刺激し合いますから、まずそれでやってみませんか。

(仲庭委員)

全然改善されてないというか、フィードバックができていない。

(齊木副会長)

今回、外部評価でB評価をいただいたんですけども、この協議会で考えるとCに近いBです。だから何とかしなくちゃいけないというわけで、やはり市長にしっかり私たちも提案したいです。

(藁会長)

みなさん、この美術博物館を残したいんです。

(齊木副会長)

それからもうひとつの話で、来年度は具体美術はひとつの柱になって進みますよね。そして、こ

のびはくルームのさまざまな活動，多様な展開が出されているんですけれども，やはり物語にする必要があると思います。個別に事業が行われるのではなくて，今年の展覧会はこういうのがあります，びはくルームは常にそれを刺激し，その中の刺激を受けながら，この企画が年間で行われますというようなものです。そして，美術博物館の今年のテーマ 物語が作れるような感じがします。そういうふうにして，先ほどのアクセスの問題と子どもたちの問題をつないで，何かを起こして先生たちに引き出していくのと，同じように美術博物館もびはくルームも次の意図がそこから出てくるような，意図は作っておきたいと思うんですよね。だからメニューはたくさん出てきたし，実行されているし，あとはこれをいかに今度は発信していくか，できると思います。絶対にできると思う。

(襄会長)

〇〇学校を今年は連れてきましたとか，そういうことをこの協議会で言ってもらいたい。「ああ，しっかりやっているんだな」っていうものが何も見えてこないから。何でも良いんですよ。我々が出した，提言したことに対して，やっているっていうことを報告していただきたい。各委員の方にはちゃんと理解してもらいたい。これまでに，すごい良い意見がたくさん出てきたと思います。それをただ聞き流すのではなくて，ちゃんとしたところに残るようなことをしてもらわないと，せっかくみんなお忙しいのに来てこの美術博物館のために頑張っているわけですから。

(事務局：長岡)

学校に来てもらうには，先ほどのバスツアーで先生方を連れてくる，本当にそれぐらいしないと全然ダメだと思います。校長会や教頭会では私も展示のチラシを先生に配って「ぜひ先生方にもPRしてください」と言っていますけれども，全然効果がありません。個別に私たちが学校教育課に働きかけをしても，全然乗ってきてもらえないっていう感じです。

(襄会長)

あきらめないで。

(事務局：長岡)

だから，もっと画期的な何かをやらないといけないと思っています。

(襄会長)

我々も教育長に話せます。

(事務局：長岡)

はい，教育長も「学校と協力しないといけない」ということはおっしゃっていますが，では具体的にというとなかなかです。

(仲庭委員)

「それでは，どうする」というのが見えないのが一番問題です。今日も外部評価の資料については事前に送っていただきましたので全部目を通して，「あ，なるほど，じゃ，それを踏まえて今

日どういうのが出てくるか」と思っていると、同じ資料の報告だけで、どう言いますか、失望したというのが感想です。

(池浦委員)

ただ「今日、報告しておしまい」っていうつもりだったのかというふうに思っています。

(仲庭委員)

正直、「えっ」と思って、「みんな読んできているじゃない」って思いました。だから、「それでどうするの」っていうところが見えなかった。

(池浦委員)

だから、消化試合やっているのかなと思いました。

(仲庭委員)

はい、だからそうです。まったくそうだと、私もちょっと内心じくじたるものがあります。

(池浦委員)

この話は、菘会長が去年の12月に運営基本方針について、「みんな本当にどう思う」って、「きちっと読み込んで意見を言ってください」ということを、何でやらないのっていう話になります。そのところに、今の問題が全部出てきちゃうわけです。運営基本方針の中に書いてある課題が、今までずっと取り組んでこられて、どうなったのかを報告していただきたいです。これについて、前回、私はお願いしたんです。しかし、半年以上経っても放ったらかしというのは、要するに何のためにこの協議会をやっているのかという話になります。それで2回目の時、齊木副会長から、「そういう本質的な話をもっとちゃんと議論するため、みんな忙しいけれども、ちゃんとやろう」とおっしゃったんだけど、あれから結局12月まで何もやってない。だから、これ本当にただ取り繕ってこういうことやってますということだけのためだけにやってるのかっていうふうに思います。悪く言ってしまうと、もう本当、委員をバカにしているような感じがします。

(事務局：長岡)

今日の外部評価の報告については、事務局はもちろん反省しないといけません。みなさん、おっしゃるように、今まで長い間、議論されてきた課題について、すぐに解決できるかと言ったらなかなか難しいところで、やる気次第だと言われれば、そうなんですけれども、なかなかすぐにはできないというところがあります。でも放置するわけにはいかないので、徐々にでもやらないといけないということで、文化ゾーンの連携につきましては、この前ですけれどもやっと美術博物館と図書館と谷崎潤一郎記念館と市で会議をもって、どんな連携ができるのだろうと話し合いました。実際にアイデアを出してできるのも、2、3年先にやることを今から詰めていくということになると思いますが、そんなふうには動いています。でも、全体的には美術博物館に関わる職員もそれを専門でやっている者がいないので、力の入れ方が難しいところも実際はあります。

(齊木副会長)

本日、お話をみなさんからいただいて、もうやらざるを得なくなりました。本当に。もうその一言だと思います。それでやろうとしてもできないことは確かです。だけど、できることから始めませんか。

(事務局：長岡)

はい、そのとおりです。

(菘会長)

せっかくだから、ひとつでも良いから、我々の意見が通ったのを見せてください。

(齊木副会長)

ことを起こさないと、人が足りない話や、お金が必要という話も説明できないですね。だからことを起こしてから、私たちも支援しますから、菘会長や私たちを市長に会わせてください。例えば、このことに関して、しっかりお話をするとか、それから学校の先生方の前で何かお話をさせていただきたく思います。

(菘会長)

本当に、市長にお話しないと、それしか前に進まないと思います。

(事務局：長岡)

今日、美術博物館協議会の中で、このような意見も出たので、それを機会にして進めさせていただければいいと思います。

(齊木副会長)

ぜひ、今日のお話を活用してください。

(菘会長)

最初に、この協議会へ来たときもいろいろな問題があって、具体美術という言葉さえも出せないぐらい厳しい状態でした。今、実際に具体美術が議題に出てくるようになったわけで、それだけでも評価しますよ。

(齊木副会長)

当時に比べたら、前へ進んだと思いますよ、確実に。

(大槻学芸員)

文化ゾーンでの連携は、この前、図書館と谷崎潤一郎記念館と美術博物館が、それぞれ今どんなことをしているかということ共有できて、これから何ができるのかなどさまざまな話が出ました。しかし、恥ずかしながら、みんな予算がないので、やっぱりお金も欲しいです、のような要望も出ました。

(菘会長)

ひとつのチラシに文化ゾーンの全部の事業を入れたらいいじゃないですか。1館ずつ作るよりも。

(大槻学芸員)

谷崎潤一郎記念館に来たら、美術博物館が休館で、美術博物館に来たら谷崎潤一郎記念館が休館というのもあるので、それを上手く調整できたらいいという前向きな話になりました。

(齊木副会長)

実はそこから今もう始まっているんですね。今までは3つの施設は点だったんですよ。それが1つ線でつながったわけで、そこから次に、市の中に線でまず出していきませんか。そうするとその線をたどって必ず来てくれますよ。

(岸野委員)

参考までに、姫路市では生涯学習課の中に1人文化施設を連携する担当者を初めて置きました。というのは現場でいくらそういう声をあげていても、なかなか予算に反映することが少ない。だから、できれば組織の中でこういうふうな部署が発生すれば、それはひとつの成果として認められます。まだはっきり成果をあげているとは言えませんが、何もなかった暗中模索でみんな横向き合っていた時とは少しは変わりました。

(菘会長)

今日、本当に素晴らしい前向きな意見がたくさん出たと思うんで、後は事務局が何かの形で我々に成果を示してほしいと思います。本日、みなさんが出された意見は素晴らしいことなので、ぜひ、それを理解していただいて、次回には何かの形でこういうことやりましたよと笑顔で発表していただきたいと思いました。

(齊木副会長)

思いますね。それで、その事から申し上げますと、やはり今の時期に意見を出しても予算には反映できないです。人の配置も要求できない。やはり、予算や人員の要求にも私たちを活用してください。そうしますと、市長にも予算を強く要求できるし、県や国の予算を引き込むことを菘会長にさせていただけると思いますので。開催スケジュールについて、今回の前にもう1回があれば、おそらく違っただろうと思います。2回よりも3回ぐらい。みなさんお忙しいでしょうけれども、協力してやっていると、ここで議論したことがちゃんと反映されるし、ピンチをちゃんと主張できると思います。以上です。

(菘会長)

もし、これ以上なければ終わります。どうもありがとうございました。

<閉会>